

お盆号

## 残暑お見舞い申し上げます

平成十七年晩夏

願生る(がんばる)

住職 奥村 孝司

あるとき、大好物の骨を啜えた犬が、池の淵で遊んでいました。

ふと池の中を見ると、犬が同じく骨を啜えてこつちを見ているじゃありませんか。さあ、池の淵にいたその犬、池の中の犬の骨が欲しくなりました。(池に映った犬がわが姿とも知らず)その骨を取ろうと口を大きく開けました。当然のことながら、啜えていた骨が池に落ちてしまいました。

笑ってばかりいられません。そんな私も似たような体験をしました。小学生のころ、近くの神社の用水池でフナ釣りをしていました。犬と違って、池の中をみていました。犬中々釣れません。しばらくして滔々寝てしまいました。

“どぼん!” 誰か池の中に落ちたようです。眼を開けてみると周りの風景に映るものが、藻草のようです。そこで初めて自分が池の中に落ちたことに気づいたのです。無我夢中、結局、兄である前任職に助けられ惨めな格好で帰宅しました。

情けないやら恥ずかしいやら犬の気持ちがいまなまって解る様な気がします。私たちが毎日見聞きしている世のことは、大半がこの話のようではありませんか。あれも欲しいこれも欲しいと、その骨を欲しさに仕舞には池の中に落ちてしまうのがおちです。

先月三十日にお墓掃除を檀中に交じってさせて頂きました。ご先祖様をお盆に迎える仕度を一緒にしました。

修証義の中に「願生此娑婆国土に来たり、見釈迦牟尼仏を喜ばざらんや」

と教えています。願ってこの世に生まれてきたんだ。だから自らの使命を全うすることをちゃんとお釈迦様は、後押ししてくれているから願生りなさいと。“頑張る”でなくて“願生る”  
“気持ちはいい響きじゃありませんか。平成十七年下半期。お体に充分気を配り、明るく元気に過ごしましょう。お地藏さんもご先祖さんもちゃんとみています。きつとみています。”



← 改修された  
大般若經典納経塔



2005・7/30

お墓掃除の風景  
炎天下の中、15名  
のご奉仕を頂きました。お疲れ様でした



智恩寺開創 400 年記念事業として、大般若經典納経塔の改修がされました。写経等の納経処として再建され、秋彼岸会のおり、開眼(魂入れ)法要を予定しています。

### 特別寄稿

おかげさま

函館市大縄町 岡本 セツ

はつとして目が醒める毎朝です。その瞬間、よし今日も生かさせて頂いているんだな。今日も一日宜しくお願います」といつも手を合わせ、ラジオに耳を傾けます。宗教(こころ)の放送を欠かせず聞いてます。  
おん年八十三歳

おかげさまで健康で居させてください。智恩寺の住職、奥村さんとの出会いはお釈迦さまの説かれた 拈華微笑(ねんげみしょう)でした。あの夜、寝ている私にどなたか忘れましたが「ねんげみしょう・ねんげみしょう」と叫びながら花びらを私にくださいました。そして漢字で「拈華微笑」と教えてくれたのです。どうも腑に落ちなくお昼を迎えたところ、奥村さんが家にやって来ました。字を早速書き、「これなんと読む?」と尋ねたところ「拈華微笑」と応えてくれました。「あんたもそう読むのか」。意味も教えてくださり、夢にでてきた謎が解けました。  
それからというものの、奥村さんの勤める函館高龍寺の達磨大師法務支所へ四十年ぶりでしょうか、信心を傾け現在に至っています。その達磨大師堂内の幕や太鼓、蓮華花、木魚、鐘、提灯と持てる範囲で、ご寄付させて頂きました。年寄りの小言に奥村さんも、心底お付き合いいただき一生懸命に布教してくれています。その姿に喜びを覚え、そのところが素晴らしく私を動かしてください。  
智恩寺さんは、これから庫裡を新築されるとの事を聞き、僅かではございますがご寄付させて頂きました。でも奥村さんだけではどうしようもないことです。加藤総代さんはじめ役員の皆様、檀家の方々の力がなくては建ちません。おかげさまの気持ちがお互いなくてはなりません。  
どうか、早期の着工を遠く函館の地よりお祈りしています。